

# 震災からの復興 自動車産業の発展とともに



写真提供：宮城県

**TOYOTA**

# 震災からの復興 - 宮城県とトヨタの歩み

2011年3月11日（金）午後2時46分に発生した東日本大震災。

三陸沖で国内観測史上最大級のM9.0の大地震とその後の巨大津波により、多くの尊い生命や貴重な財産が失われました。

宮城県では、単なる復旧にとどまらず、将来を見据えた「創造的な復興」を目指す中、自動車産業がものづくり産業全体の競争力強化を牽引するとともに、地域経済再生の大きな原動力となりました。



2006

みやぎ自動車産業  
復興協議会設立

2011

東日本大震災

2012

トヨタ自動車東日本  
(TMEJ) 発足

2017

イワタニ水素ステー  
ション宮城仙台開所

2019

スマートモビリティ  
社会システム  
実証プロジェクト開始

2024

生産現場AI活用  
相互研鑽活動始動

県内自動車関連企業等が参画し、高度な技術力の集積、受発注機会の拡大を促進して自動車関連産業の集積を図ることを目的に設立されました。

2011年3月11日（金）  
午後2時46分発生

関東自動車工業、セントラル自動車、トヨタ自動車東北の3社の統合により誕生。トヨタ国内第3の拠点としてコンパクトカーを生産しています。

水素エネルギーの利活用推進に向け、東北初の商用水素ステーションが開所しました。

## ▶ 第二仙台北部中核工業団地の変化



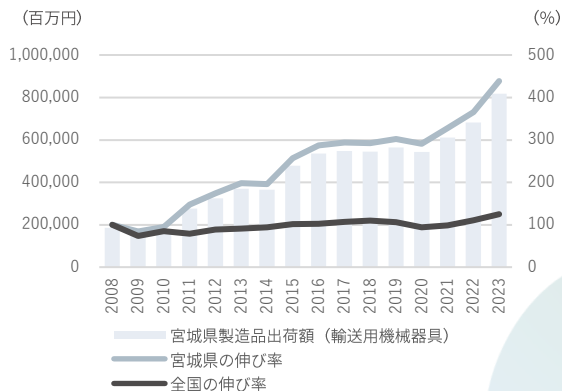
2007年7月



2022年5月

第一仙台北部中核工業団地も含めた仙台北部中核工業団地群は400haを超える分譲用地に、工業用水、特別高圧電力、ガスなどのインフラが完備され、TMEJを含む67の事業所が集積しています。

## ▶ 自動車産業の製造品出荷額の推移



## ▶ 宮城県知事コメント

東日本大震災の発生から今日に至るまで、国内外の多くの皆様から心温まる御支援・御協力を賜りましたことに、改めて深く感謝申し上げます。未曾有の大災害に見舞われた本県にとって、2012年7月にTMEJが発足し「中部、九州に次ぐトヨタ国内第3の生産拠点」に位置づけられたことは、復興への大きな希望となり、今や自動車産業は東北のものづくりを牽引する基幹産業へと成長しました。これからもトヨタグループや地域の皆様とともに、新たな価値を創造し未来を切り拓いてまいります。

宮城県知事 村井 嘉浩



# 宮城県とトヨタの取り組み

宮城県が実施してきた自動車産業・ものづくり産業の振興のための取り組みのうち、トヨタが共に取り組んできたものの一部をご紹介します。

## ▶ 合同展示商談会

トヨタグループ向け合同展示商談会は、単なる受注機会の創出にとどまらず、地域企業の品質・技術・提案力の向上や経営意識の改革を促し、競争力強化を後押ししてきました。

2005年に宮城県・岩手県で始まった取り組みは、現在では東北6県、新潟県、北海道の8道県へと広がり、2026年に20回目を迎え、102企業・団体が出展しました。

宮城県からは、設計開発、製造技術、検査・評価に至る分野に加え、CASE対応やスタートアップなど次世代を見据え提案しています。



## ▶ 生産現場AI活用相互研鑽活動

TMEJが培ってきたAI画像検査のノウハウを県内ものづくり企業へ展開し、生産現場の改善とAI人材の育成に取り組んでいます。

従来、熟練作業者の目視に頼っていた検査工程をAIによる画像診断へ置き換えることで、品質の安定化や作業負担の軽減、生産性向上を実現しています。

この活動は、先進技術の導入にとどまらず、現場でAIを使いこなす人材を育て、地域企業の競争力強化とものづくりの高度化を支えています。

## ▶ スマートモビリティ社会システム実証プロジェクト

宮城県とトヨタは、沿岸市町と連携し、スマートモビリティを活用した地域課題の解決や持続可能な低炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。

小型・歩行領域EVの試乗会や交通に関する住民勉強会、AIデマンド交通の実証などを通じて、先進技術の社会実装に挑戦しています。

地域住民も主体的に参画しながら、将来のモビリティや地域交通のあり方を共に考え、未来のまちづくりを先導する取り組みとなっています。

## ▶ 異業種相互研鑽活動

異業種相互研鑽活動は、自動車産業で培われた改善の考え方を、水産加工業や農業など様々な業種へ広げる取り組みです。TMEJの相互研鑽の担当者が水産加工など参画企業の現場に赴き、互いのものづくり・現場を学び合い、知恵と工夫による改善活動を実践することで、生産性向上や業務効率化につなげています。

宮城県の産業支援機関が参画企業を募集し、これまで延べ26社（2026年9月時点）が取り組みを進め、生産リードタイムの短縮などの成果を創出するとともに、現場自らが課題を発見し解決する「自主改善」の文化を育んできました。業種の枠を超えた学び合いが、地

域産業を支える人づくりにつながっています。



取引創出

人材  
創出・育成

技術開発  
・  
技術力強化

## ▶ 生産現場改善

地域企業の自動車産業への参入や取引拡大を目指し、生産現場改善や製品開発、提案力向上に向けた取り組みを進めています。

TMEJによる実践的なセミナーでは、トヨタ生産方式やものづくり改善の考え方を学び、現場力の向上につなげています。また、同社OBがアドバイザーとして企業に寄り添い、生産改善や新技術・新製品開発などを伴走支援しています。

トヨタの知見を地域に根付かせながら、企業の競争力強化と持続的な成長を後押ししています。



# 宮城県からみた自動車産業、トヨタとは？

宮城県における自動車産業振興の取り組みをリードされている松崎様、笠松様にお話を聞きました。



## ■ 宮城県における自動車産業の役割、使命について教えてください。

松崎様：宮城県は元々サービス産業への依存度が高い地域でしたが、人口減少が進む中、「これからの時代はものづくりが重要」と考えていました。そのため、付加価値の高い成長産業として自動車を大きな柱に据え、取り組みを進めていました。2011年に東日本大震災が発生しましたが、TMEJの発足は、地元企業に勇気を与え、自動車産業形成の基盤になっていきました。

笠松様：自動車は樹脂、アルミ、ゴムなどの様々な素材や、3万点もの部品でできており、近年では「モビリティ」という言葉に代表されるように、MaaSなどの分野も広がり、IT企業の参入も進んでいます。非常に裾野の広い産業であり、地元企業にとって様々な参入のチャンスがあることは大きな魅力だと思っています。

また、車両工場が地域に立地すると、そこを中心にサプライチェーンが形成され、自動車産業の集積につながります。東北においても、TMEJの発足を契機に、ますます産業集積が進んできました。

松崎様：さらに、安定した雇用の創出、人材の地域定着にも大きく寄与しています。宮城県にとって自動車産業は、震災後の産業復興を支えてきた「復興の象徴」であり、これからも持続可能な地域社会に不可欠な役割を果たしていくと考えています。

## ■ 宮城県の自動車産業がここまで振興してきた背景について教えてください。

松崎様：TMEJをはじめとするトヨタグループ、そして県、市町村、地元企業が一体となって取り組みを積み重ねてきたことにあると考えています。震災後、トヨタグループはいち早く生産体制の再構築と供給網の立て直しに地域とともに取り組まれ、ともに復興に向かう中で強い信頼関係が築かれたと感じています。この経験は、その後の自動車産業振興を進める上での大きな財産となりました。

また、宮城県では企業誘致や産業基盤の整備に加え、地元企業の競争力向上にも取り組んできました。QCDへの対応力を高めるための人材育成や生産改善支援、取引拡大支援を継続した結果、サプライチェーンの強化や地元調達率の向上が進んだと感じています。さら

に、高校や大学などと連携した人材育成にも力を入れてきました。こうした取り組みの積み重ねにより、自動車産業は宮城の復興と成長を支える重要な産業になったと考えています。

笠松様：トヨタグループが、「町いちばん」の会社を目指し、地域に寄り添う形で人材育成に取り組んでくれたことが、今につながっていると思います。

2011年10月に開催されたトヨタ自動車・トヨタ東北主催のエンジン部品展示説明会には、8道県（北海道・東北6県・新潟県）と北関東3県から約200社が参加し、参加企業がどの部品を製造できるか、現地調達化に向けた検討を行いました。また、宮城県独自の取り組みとして事前勉強会を実施しました。部品を見ただけでは機能や構造、品質要件を理解することが難しかったため、トヨタ自動車でチーフエンジニアを務めた経験を持つ宮城県職員が講師役となり、産業技術総合センターが保有するエンジンを分解して、部品解説や現物確認を行いました。震災直後にもかかわらず、地元企業とトヨタの双方から将来を見据えた熱意が感じられたことが非常に印象的で、復興を支える大きな原動力になっていたと感じています。

## ■ TMEJの発足と、その後の取り組みは、県にどのような影響を与えていますか？

松崎様：TMEJの発足は、宮城県にとって非常に大きな

# 宮城県からみた自動車産業、トヨタとは？

宮城県における自動車産業振興の取り組みをリードされている松崎様、笠松様にお話を聞きました。

転換点でした。「東北を中部・九州に次ぐ第三の生産拠点にする」と宣言していただいたことは、地域にとって大きな励みになりましたし、宮城だけでなく8道県の広域で、競争力の高い生産体制を築いていくきっかけになったと感じています。

TMEJの取り組みとしては、「地域に根差したものづくり」という視点で、地元企業への技術指導や人材育成支援をしていただいています。現場改善や品質・コストに対する考え方、TPS（トヨタ生産方式）の理念が県内企業にも広く浸透していったことで、**全体の底上げが進み、地域産業の競争力向上につながった**と考えています。

さらに、環境保全活動や地域イベントへの参加、文化・スポーツ振興など、**地域社会への貢献も大きな存在感を持っており、地域との信頼関係につながっている**と思います。そういう意味で、多面的に、地域への好影響が出ていると感じています。

笠松様：TMEJの発足前、派遣研修という形でトヨタ自動車に2年間お世話になりました。高岡工場や生産調査室で、生産管理から組立、品質管理、TPSまで幅広く学ぶ機会をいただき、トヨタの考え方やものづくりの大切さを現場で肌で感じることができました。ちょうどその頃、セントラル自動車から参与として宮城県に来ていただいた方が県内企業の生産改善に取り組んでおり、私もトヨタ自動車から帰任後、その活動に加わりました。

県内の企業は、品質検査は最終工程で行い、そこで不良品を弾いて良品を出せば良いという考え方でした。しかし、自分が教わったものづくりは、工程ごとに品質要件を決めて、後工程に不良品を流さないということ、「**自工程完結**」です。安全・品質・原価に対する考え方の違いにも苦労する場面がありましたが、参与が一社一社に丁寧に向き合いながら改善を進める姿を間近で見て、私もサポートしてきました。

こうした取り組みを通じて、**県内企業のQCDは着実に向上してきた**と感じております。現在もTMEJから参与として宮城県に来ていただいているほか、宮城県職員のトヨタ自動車への派遣研修も続いており、**人材育成や県の施策立案にも良い影響を与えていただいている**と感じています。

## 宮城県における自動車産業の更なる発展に向けた課題、そしてTMEJ・トヨタに期待することは何でしょうか？

松崎様：1つ目は、電動化やデジタル化が進展し、従来の部品構成が大きく変わる中、変化に対応し、新たな分野へ挑戦できるよう、技術転換や事業再構築を支援していくことが重要だと考えています。2つ目は、次世代モビリティに対応できる人材の確保と育成です。県でも高校生向けのバッテリー学習や、大学生向けのAIやデジタル設計・プログラミング教育など、新たな取り組みを進めています。3つ目は、サプライチェー

ンの強靱化と付加価値の向上です。国際情勢の変化や災害リスクが高まる中でも安定した供給体制を維持するとともに、競争力を高めていく必要があります。

こうした中で、TMEJには、引き続き**地域の中核企業として東北のものづくりを牽引していただく**ことを期待しています。県としても、人材育成や企業支援などを通じてその取り組みを後押ししながら、東北が国内第3の生産拠点としてさらなる発展を遂げられるよう、力を合わせて歩んでいきたいと考えています。

笠松様：課題は、やはり技術の進化への対応だと思います。以前は、トヨタ自動車から宮城県職員として来ていただいたチーフエンジニアの方が常駐し、パワーユニットやドライブトレイン、シャシーなど様々なユニットについて、新しい技術が出るたびにそれを調べ上げ、現物を使いながら地元企業に指導していただいていた。自動車メーカーの第一線で活躍された方であれば得られない知識や経験が数多くあり、その重要性を強く実感しています。こうした方が、再び日常的に我々のそばにいて、現物を目の前にして、機能や構造のナゼや、当時の苦労などを茶飲み話のようにしていただけると大変嬉しいです。



**トヨタ自動車株式会社**

〒471-8571

愛知県豊田市トヨタ町1番地

<https://global.toyota/jp/>

**TOYOTA**